

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立牛津高等学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・「学力向上」・「心の教育」・「健康・体づくり」については、おおむね目標を達成することができた。 ・「業務改善・教職員の働き方改革」については、時間外勤務時間の平均が前年度より増加するなど、課題が残っている。 ・「魅力ある学校づくり」については、残念ながら志願倍率が1倍を割り込み、課題として残った。	
------------------	--	--

2 学校教育目標	変化の激しい時代にあっても常に志を強く持ち、知性と慈愛をもって人々の暮らしに安心と豊かさを提供し、よりよい未来を創造できる人材を育成する。 また、住民との協働により、地域をデザインし地域に活力をもたらす存在として、心身ともに健全で調和のとれたチャレンジ精神あふれる人材を育成する。	
----------	---	--

3 本年度の重点目標	・生徒の基礎学力や専門的な知識・技術を確実に定着させる取組を継続し、進路実現につなげる。 ・ボランティア活動や地域との協働などを通して、生徒の主体性や積極性を高め、思いやりの心を育む取組を充実させる。 ・学校魅力強化委員会（学校運営協議会）を活用し、地域に関かれた魅力ある学校づくりを推し進め、選ばれる学校を目指す。	
------------	--	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○共通教科の基礎学力の向上	○基礎力診断テストの成績でD1以上の生徒の割合を80%以上にする。	・基礎学力の定着と向上に向け、授業の工夫・改善を図るとともに、適切な課題の出し方について、教科内で共通理解を図り、実践する。	C	・9月に行った基礎力診断テストでは、D1以上の割合が2年生で74.4%、1年生で51.2%と目標に届かなかった。2年生は4月と比較して増加している(65.4%)が、1年生は減少している(66.3%)。改善の方策を急ぎ議論し、早急に実施に移す必要がある。 ・3年生は4月のみ行っており、88.5%と目標を達成している。	C	・残念ながら学校全体として成果指標の目標を達成することはできなかった。 ・学力下位層への手立てを各教科において工夫するとともに、上・中位層に対して、発展的な学習に取り組めるように、適切な指導方法の研究・教材の選定等を進めていく必要がある。
	○★専門的学習の基礎・基本の定着	○★家庭科技術検定の合格率100%とし、基礎・基本の定着を図る。	・指導方法や教材についての研究を行うと共に生徒個々の到達度に応じた指導を行い、技術の到達度を評価する実技テストを実施する。	A	・個々の生徒の現状に合わせたきめ細やかな指導を行った。前期の技術検定については、保育96%、被服96%、食物99%の合格率であった。今後も後期受験に向けて100%を目指して指導をしていきたい。	A	・家庭科技術検定3.4級は食物、被服、保育100%合格し、各分野基礎技術の定着ができている。前期同様後期についても個々に応じたきめ細やかな指導を行ったが、上位級1.2級は食物97%、被服86%、保育64%であった。
	○★起業家マインドの育成	○★主体的に資格や検定、コンテスト、ボランティア活動や地域との活動などチャレンジする生徒を70%以上にする。	・家庭に関する専門科目間及び他教科との連携をこれまで以上に取しながら、特に、「生活産業基礎」「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」の指導内容を充実し、効果的に実施する。	A	・各種コンテストへの参加状況は、約200名で全体の68%となっている。今後もコンテスト等への参加を促していきたい。 ・2年次の「起業家入門Ⅰ」の授業については、30名の希望生徒が受講し、3チームが「佐賀さいこう企画甲子園」に挑戦し、現在1次予選を突破するなどの成果を出している。	A	・各種コンテスト等への参加は、のべ約365名で全体の125%となっており、多くの生徒が参加している。 ・「起業家入門Ⅰ」を受講した3チームが「佐賀さいこう企画甲子園」に挑戦した。3チームが2次審査に進み、そのうち1チームが最終審査に進んでいる。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○倫理観や正義感などに関連する講演会を年4回以上開催する。	・性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にすることを育成する。	A	・9月に「性に関する講演会」を実施した。今後は12月に「薬物乱用防止講話」を、1年生全員を対象に、12月に「エイズ予防講演会」、1月には「がん教育講演会」を予定しており、生徒に豊かな心を身に付けることを目指した教育活動を継続して行っていく。	A	・予定していた4回の講演を実施することができた。 ・生徒のアンケートでも、「豊かな心を育成する教育が行われている」に対して肯定的な回答をする生徒の割合が90%を超えており、講演会などの取組は効果を出していると考えられる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に積極的に取り組んでいると感じている生徒・保護者の割合が75%以上 ○いじめの解消率100%	・学校生活アンケート(年2回)を実施するとともに、日頃から生徒の観察や面談等によるきめ細かな対応を徹底する。 ・問題が発生した場合は、迅速に会議を開き、組織的な対応を図る。	A	・6月いじめに関するアンケートを実施し、いじめの認知を行った。7月は生徒からの訴えで認知を行った。9月末時点で、重大事案は0件である。 ・いじめ認知後は、速やかに対策委員会を開催して関係職員で情報共有を行い、連携を図りながら組織的な対応を行っており、解消へ向けて見守りを続けている。	A	・学校評価アンケートの結果、生徒78.7%、保護者81.9%が、「学校はいじめの早期発見に積極的に取り組んでいる」と回答した。 ・年2回の学校生活アンケートから8件、生徒・保護者の訴えから3件のいじめを認知した。いずれの事案も、関係職員で情報共有を行って、組織的に対応を図り、解消へ向けて見守りを続けた。重大事案は0件である。
	◎★志を高め、思いやりの心を持った他人のために働くことのできる生徒の育成	○★ボランティア活動や地域との活動など協働活動に参加する生徒の割合を70%以上とする。	・地域の課題や身の回りの課題解決のために様々な人々と交流・協力し合い活動できる生徒を育てるボランティア活動の充実を図る	B	・全校生徒対象ではないボランティア活動では、牛尾山の環境整備活動などを行い、9月末時点ではのべ人数で120名ほどになっており、全校生徒に対して40%程度である。今後もボランティアの依頼等があるため、積極的な参加を促したい。	A	・全校生徒対象ではないボランティア活動へは、のべ約210名(72%)が参加した。ボランティアメンバーの固定化は課題となっている。 ・小城市たなだ部、牛津子ども食堂や学習支援活動など幅広い活動にも積極的な参加ができています。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上にする。 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	A	・2、3学期の間に、保健だよりをとおして、生徒に朝食の大切さを伝える予定である。 ・10月中に「食に関するアンケート調査」を行う予定である。 ・1年次の「家庭基礎」「家庭総合」の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができています。	A	・保健だよりをとおして、生徒に朝食の大切さを伝えた。 ・アンケートの結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は100%、朝食喫食率は93%だった。 ・家庭科の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができています。 ・これまでの地域も含めた本校の食育活動が評価され、「佐賀県食育推進優良校」の表彰を受けた。
	●安全に関する資質・能力の育成	○防災に対する意識が高まったと考える生徒の割合を80%以上にする。	・防災避難訓練を通して防災に対する意識の向上を図る。 ・防災に関するアンケート調査を行う。	A	・6月に全校生徒及び教職員を対象に防災避難訓練を行った。 ・訓練後に、訓練に参加した生徒を対象に、防災に関するアンケート調査を行ったが、防災に対する意識が高まったと答えた生徒の割合は98.2%だった。	A	・当初の計画通り、6月に防災避難訓練を実施し、防災意識に関するアンケート結果も目標を大きく上回った。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・部活動休養日を設定する。 ・年休・振休取得を奨励する。	B	・9月末現在で、本校職員の時間外在校等時間は月平均30時間29分、上限45時間超過者は8人で、いずれも昨年度より若干増加している。 ・定時退勤推進日は水曜日に設定した。 ・学校閉庁日を夏季休業中に5日間設定した。 ・部活動休養日は、9月末時点で、平均すると全ての部が週2日以上休業日を取得している。	B	・2月末現在で、本校職員の時間外在校等時間は月平均28時間00分、上限45時間超過者は7人(14.5%)で、いずれも昨年度より若干の増加傾向は続いている。 ・定時退勤推進日は水曜日に設定、学校閉庁日は夏季休業中に5日間設定したが、定時退勤日の実効性は低い。 ・部活動休養日は、2月末時点で、平均するとすべての部が週2以上の休養日を取得しており、概ね良好である。
	○教職員のスキルアップによる業務効率化	○オンライン授業、ライブ配信をするための機材設置、配線、配信を全ての教職員ができるようになる。	・機材設置、配線、配信についての研修会を開催する。	A	・職員が一斉に受講する研修会は実施できていないものの、授業のライブ配信時や各種講演会時における教員間の連携を通して、各人のスキル向上が見られた。	A	・年間を通して、出席停止等の生徒がいるクラスでは、ほとんどの授業のライブ配信を担当教員が自分で行うことができた。 ・授業、講演会等の実施を通して教員のスキル向上及びそれに伴う業務の効率化を図ることができた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
★学校の魅力強化及び広報活動の充実	★習得した専門的知識や技術をふまえた希望進路の実現	★個に応じた進路希望の推進を行い、進路内定率100%を維持する。 ★教育系・食物・家政系等の大学・短大・専門学校進学を80%以上とする。	・四年制大学の受験希望者に対する早期受験対策を構築する。 ・進路希望企業の求人依頼や新規開拓を行う。 ・担任及び学科、就職支援員との密な情報交換を行う。	A	・9月末時点での求人数は1132人で、今年度の就職希望者54名のうち、9月末までの内定者数は31名となっている。 ・9月末現在で、68人が進学希望者で、うち49人(72.1%)が本校3学科での学びを踏まえた教育・食物・家政系の学部・学科への進学を希望している。	A	・求人数は1194人(県内301人、県外893人)で、就職希望者のうち内定率は100%を達成した。 ・進学希望者68人は二学期末までに進路決定100%を達成した。そのうち51人(75.0%)が教育・食物・服飾等家政系で、美容関係が10人(14.7%)、外国語や学際光関係3人(4.4%)となり、高校での幅広い学びを活かして進学した。
	★選ばれる学校に向けた広報活動の工夫	★高校進学説明会は県内5か所すべてに参加する。 ★本校生徒が参加する小中学校への出前授業に4回以上出向く。 ★学校ホームページの学校活動等に関連するものを月1回以上更新する。	・説明会やウェビナーでは、生徒のアンケート調査などをもとに各科の魅力や学校生活が具体的にイメージできる説明を行う。 ・生徒の活動等をこまめに記録し、ホームページ等で発信を行う。 ・魅力化推進コーディネータを活用する。	B	・高校説明会は5か所すべてに参加したが、中学生の参加が少なく、次年度への課題となった。 ・1学期中に中学校への訪問を計画したが、台風により中止となった。2学期以降も小中学校だけでなく、こども園も含めて、出前授業等に出向く予定である。 ・学校ホームページの更新についてはこまめに更新することができた。また、本校のYouTubeチャンネルを開設し、毎月複数の動画を配信している。	B	・高校説明会は5か所すべてに参加した。 ・服飾デザイン科やフードデザイン科の生徒が小学校の放課後児童クラブや、土曜日に地域が主催する体験学習会に小学生を指導する機会を得た。また、生活経営科ではこども園の園児に音楽劇を披露することができた。 ・YouTubeの動画は現在21本アップしており、ほぼ毎月配信することができた。ホームページについてはやや更新が滞る時期があった。
	★コミュニティ・スクールの効果的な運用	★学校運営協議会を年間4回以上開催する。 ★各委員の「積極的な学校運営への参画」に対する満足度を80%以上とする。	・学校運営協議会及び部会内での意見をもとに、学校魅力化の活動につなげる。 ・委員による学校行事等への参加を積極的に推進し、学校を身近に感じてもらう。	A	・学校魅力強化委員会を1学期に1回、部会を9月までに2回開催した。様々な意見をいただき、改善に取り掛かっている。 ・行事ごとに委員への案内を行った。体験入学については、委員の出席をいただいた。委員へのアンケートは最終評価前に行う予定である。	A	・学校魅力強化委員会を3回、部会を5回の計8回開催した。部会については人数が少なく、多様な意見が出にくいのではないかと意見をいただいた。 ・委員に文化祭や生徒の発表会などへの参加をお願いした。今後は普段の授業にも気軽に参加していただき、普段の学校の様子をさらに知ってもらう機会を設ける必要がある。

●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・ 次年度への展望	・専門的な知識・技術を確実に定着させる取組については、継続した指導の成果が出ており、就職内定率も県内の中でも高水準となっている。基礎学力については、4月と比較して9月に下降する生徒がでたため、後期に学年を中心に指導が行われており、次年度4月の結果を受けてのPDCAの再検討を行う。 ・ボランティア活動や地域との協働活動は、教育課程内外問わず積極的に参加する生徒がおり、地域貢献だけでなく生徒の資質能力の向上にも役立っている。今後はボランティア等に参加する生徒のすそ野をさらに広げよう、生徒への案内等の工夫を行いたい。 ・学校魅力強化委員会(学校運営協議会)により、様々な立場からの有意義な意見を得ることができた。次年度以降はさらに委員内での議論等を活発になるよう、会議の進行の工夫に取り組みたい。また、学校の魅力発信については、様々な手法で行っているものの、生徒募集という形での目に見える成果はそれほど得られなかった。今後も魅力発信の手法等を研究・実践し続ける。
--------------------	---